

平成24年7月20日

各 位

積 水 ハ ウ ス 株 式 会 社

**「第6回キッズデザイン賞」に4部門6点で受賞
賞の創設以来、積水ハウスは6年連続で受賞達成**

積水ハウス株式会社は、7月13日（金）に発表されたキッズデザイン協議会（内閣府認証 NPO、本部：東京都港区）主催の「第6回キッズデザイン賞」において、「多世代居住の『ひと縁』をつくる～マストライフ古河庭園」「『けやき幼稚園』～樹齢400年の大けやきのある森とともに～」「子どものためのスマートユニバーサルデザイン～生活者とともに作る子どもの安全な成長を考えた住まい～」など、計4部門6点でキッズデザイン賞を受賞しました。当賞の創設以来、6年連続での受賞となります。

キッズデザイン賞は、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」、「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」、そして「子どもたちを産み育てやすいデザイン」というキッズデザインの理念を実現し、普及するための顕彰制度です。乳幼児用品や玩具などの子ども向けの製品・サービスに限らず、大人向けのものでありながら子どもに対する配慮がなされた良質な商品や施設、プログラム、調査研究活動なども対象としており、受賞作品には「キッズデザインマーク」の使用が認められます。

なお、7月31日（火）には全受賞作品250点の中から最優秀作品として「経済産業大臣賞」4点と「少子化対策担当大臣賞」2点、「消費者担当大臣賞」1点、及び優秀賞等が発表される予定です。



受賞項目は下記の通りです。各項目の詳細については次頁以降を参照ください。

<子どもの産み育て支援デザイン>

地域・社会部門

☆ 多世代居住の「ひと縁」をつくる ～マストライフ古河庭園（所在地：東京都北区）(※1)

<子どもの未来デザイン>

リテラシー部門

☆ 「けやき幼稚園」～樹齢400年の大けやきのある森とともに～（所在地：埼玉県所沢市）(※2)

☆ 子どものインテリア力からの住育研究 (※3)

クリエイティブ部門

☆ 上に広がるわくわく秘密基地「アクティブフロア+ロフトステップ」

☆ こどもOSに基づくデザイン発想ツール「プレイフル・デザイン・カード」の開発と検証 (※4)

<子ども視点の安全安心デザイン>

一般部門

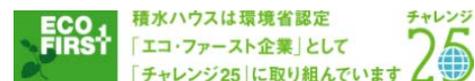
☆ 子どものためのスマートユニバーサルデザイン

～生活者とともに作る子どもの安全な成長を考えた住まい～

(※1) 事業主は積和不動産株式会社 (※2) 学校法人越阪部学園との共同応募 (※3) 京都女子大学と共同応募
(※4) 「こどもOS研究会」参加自治体と企業による応募

<本件に関するお問い合わせ先>

積水ハウス株式会社 広報部
(大阪) 06-6440-3021 (東京) 03-5575-1740



■各受賞内容について

☆ 多世代居住の「ひと縁」をつくる～マストライフ古河庭園

子どもの産み育て支援デザイン 地域・社会部門

積水ハウスの「ひと縁」は、居住者同士もさることながら、居住者と地域の人々が様々なつながりを持ちながらともに暮らしていくことを目的とするコミュニケーションデザインです。マストライフ古河庭園は「ひと縁」を現実化するために、「子育て向け住宅」と「シニア向け住宅」の交流を最大のテーマとして計画しました。多世代が交流するための共用スペースを作り、イベントを定期的的に実施することにより、多世代交流型の住居を実現しています。また、マストライフ古河庭園は家族の「近居」も可能にします。つまり、ここでの「ひと縁」は、血縁をも含んでいます。積水ハウスの考える「3つのち縁」（血縁・地縁・知縁）の実現に寄与し、子どもが成長するのにふさわしい住環境を創造し、「多世代交流」「地域交流」が無理なく発生し、持続していく仕組みを提供していきます。



物件リンク先 <http://www.mast-net.jp/furukawa/>

☆ 「けやき幼稚園」～樹齢400年の大けやきのある森とともに～ (学校法人 越阪部学園との共同応募)

子どもの未来デザイン リテラシー部門

積水ハウスが埼玉県所沢市に建築した「けやき幼稚園」。子どもの安全面、職員の見守りやすさに配慮しつつ、全園室からシンボルツリーであるけやきを眺めることができる開口計画をし、ウッドデッキの回廊により各園室をつないで、内外空間の一体化や異年次交流を図れるよう設計しています。また、台風で折れてしまった園内のけやきをアスレチック遊具に転用するなど、自然を大切にする取り組みを実現しています。園の基本思想である「自然に触れ、子どもたちの自立する芽を育てる」をベースにしつつ、「外で泥んこになるまで遊ばせ、中でしっかり保育するというメリハリを生みたい」という園長先生のお考えを加味し、子どもたちを中心に思い思いの利用がなされ、成長に寄与する様々な体験や経験を得ることができる、そんな子育ての場を目指しました。



どこからでも樹齢400年のご神木が園児たちの成長を見守る自然豊かな園内



70mに及ぶ屋根を利用した太陽光発電



倒れたけやきを遊具に



自分で居どころを選べる図書室



回廊と室内段差は子どもが靴を脱ぎ履きし易い段差としました



「森の家」と名付けた講堂 木製トラスがダイナミックな空間を演出

(京都女子大学との共同応募)

近年、住宅の質は向上する一方、子どもたちの生活習慣の欠如や自立心の希薄化が指摘されています。また、nLDK型の住宅は浸透しているものの、多くの家庭では親子同室寝の習慣が残り、リビングや食卓で学習するなど、子ども部屋はあまり使われていません。子どもの居どころは成長によって変化し、家庭の住まいや育児に対する考え方によっても異なります。積水ハウスは原体験となる住まいにおいて、子どもたちが生活力を身につけ自立していくために、子どもの居どころとインテリアに関わる行為に着目し、住育についての研究を行ってきました。子どもとインテリアとの関わりを育み、生活力を身につけて行く方法について、研究を進めています。

(※) 『インテリア力』とは絵を飾ったり、小物を置いたりといったインテリアに関わる行為をする能力を意味する造語です。

研究の流れ	現状分析(アンケート)	定性分析(訪問調査)	実証	継続研究
	<ul style="list-style-type: none"> ■調査項目:学習や就寝の場、就寝形態、学習机や家具、持ち物の置き場所、子育てやインテリアに関する母親の考え、父親の家事への参加など ■被験者:2歳から高校生までの子どもを持つ核家族の母親591人、子どものべ1066人(大阪・兵庫・京都・奈良)、居室数3.57、独立住宅320/集合住宅234/寮・その他37 	<ul style="list-style-type: none"> ■調査項目:子ども部屋の現状、学習場所の現状、就寝場所と就寝形態、子どもの遊び場、子どもの持ち物の場所、子どもの片付け、インテリア行為など ■被験者:左記アンケート調査回答者の中から、母親のクラスター別に抽出した23件(戸建16、集合7)(大阪・兵庫・京都・奈良) 	<p>住育アプリケーション開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■調査方法:一対比較法への応用 ■調査項目:子どものきょうだい構成による要求の違いなど ■被験者:子どものきょうだい構成の異なる母親、男子学生、女子学生



写真は訪問調査した物件事例(子どもの居どころの様子)

☆ **上に広がるわくわく秘密基地「アクティブフロア+ロフトステップ」**

高いところから見下ろしたり隠れたり・・・「アクティブフロア+ロフトステップ」は子どもがワクワクする秘密基地となる子ども部屋のロフト空間の提案です。いろいろな遊びを生みだしてくれる楽しい多層空間は、子どもの創造力と豊かな感性を育みます。

～ 子どもが安心して遊び、豊かな感性を育むための3つのポイント～

Point①

多層でワクワク!

視線の高さの変化が、子どもたちにモノの見方の多面性を教えてくれます。

下部の収納の天井高さを下げ、小屋裏空間を有効利用。多層断面による「縦方向の豊かな暮らし」を提案します。天井の高いのびのびとした空間で上から見下ろしてみると、少し違った世界の見え方を発見できます。



Point②

ぼくらでも楽々収納!

片付けの苦手な子どもでも、サッと出し入れができます。

ロフト空間上部は小屋裏収納のほか、ちょっとした隠れ家。下部は壁付収納よりも広く、たっぷりとしたウォークインタイプの収納スペースを確保。



Point③

梯子より安全なロフトステップ!

歩行が不安定な子どもも安心なデザインです。階段の上り下りは、遊びのワクワク感を高めるとともに、身体の発達を自然に促してくれます。



ロフトステップ

荷物を持って上下することが多いロフト。子ども部屋の中を移動して遊ぶ場所なので、梯子よりもしっかりしたロフト用固定階段を設けました。歩行が不安定な子どもの動きにも安心なデザインです。

構造

空間を上下ともに有効に使える高さに設定

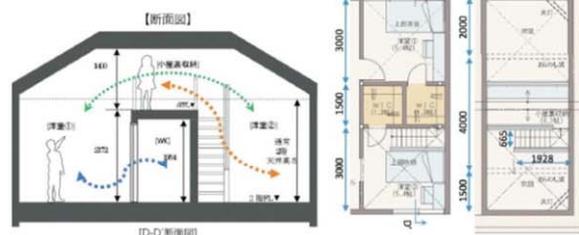


※アクティブフロアの上下空間は非居住としています。

・通常の小屋裏収納と違い、小屋梁よりも低い位置に設けた床が「アクティブフロア」です。
・アクティブフロア下部空間では収納等で利用できる最低限の空間高さとし、北側建築斜線などが厳しい都市部でもロフトを有効に設けることができます。

プラン

プライバシーを確保しながらも、解放感のある子ども部屋が可能



アクティブフロアを隣接するふたつの子ども部屋から別々に分割して利用するパターン。子ども部屋①と子ども部屋②は小屋裏収納(AF上)を介して繋がっています。AF下は子ども部屋①が利用し[←.....→]、AF上は子ども部屋②が利用する[←.....→]様な立体的な空間利用もできます。
・アクティブフロアは小屋吹き抜け内に設ける本体構造躯体から独立した造作物(非構造体)であるため、通常よりも広々とした開放的なプランが可能となります。

☆ こどもOSに基づくデザイン発想ツール「プレイフル・デザイン・カード」の開発と検証 (※)

子どもの未来デザイン クリエイティブ部門

「こどもOS研究会」(大阪府産業デザインセンター/積水ハウス株式会社/大和ハウス工業株式会社/パナソニック株式会社/株式会社ジャクエツ環境事業/NPO法人GIS総合研究所)による応募研究会リーダーは大阪府・積水ハウス

認知心理学や教育工学、ワークショップの専門家を交えたこどもの行動観察調査から、こどもの成長発達過程で発現する共通の行為を抽出し、それに基づくデザイン言語(こどもOSランゲージ)、発想のためのデザインコードを研究開発しました。(2010年 キッズデザイン賞 経済産業大臣賞受賞) これを、建築・環境デザインやプロダクト等のデザイン開発の現場で活用できる「プレイフル・デザイン・カード」として発展させました。遊びゴコロに満ちた創造的なデザインコードに加え、避けなければならない危険を、ハザード予測や事故防止に役立つ「安全・安心コード」として付加しました。

(※) こどもの持つ純粋で直観的な思考や行動、感性を「こどもOS」(コンピューターのOSから命名)と定義しました。



プレイフル・デザイン・カード



「プレイフル・デザイン・カード」を使った実習テキスト



「プレイフル・デザイン・カード」を使った大学での実習の様子

□演習協力: 京都市立芸術大学/神戸芸術工科大学/同志社女子大学
□カード制作協力: 芳川紙業株式会社

☆ 子どものためのスマートユニバーサルデザイン

子ども視点の安全安心デザイン 一般部門

～生活者とともに作る子どもの安全な成長を考えた住まい～

積水ハウスでは、これまで多くのユニバーサルデザイン・アイテムを開発し、住まいに導入する事で、より安全で安心な暮らしを提供してきました。しかし、単に安全な住まいでは子どもの豊かな成長に繋がりません。そこで積水ハウスでは、安全を確保しつつ自主性を促す“子育て”視点に基づいた「子どものためのユニバーサルデザイン」を親子で学習・体感できる仕掛けを用意しました。生活者が住まいづくりの際にユニバーサルデザインを理解し、適切な設計を行うため、身近なヒヤリハットなどに気づいてもらうチェックカードや住宅展示場に親子で学習できるポップを導入しました。このような子育て視点のユニバーサルデザインにより、生活者がその意味をわかりやすく理解できるようになりました。

発達過程にある子どもの心身の特性や能力を考えて“あぶない”を少なくしながら“できない”ができるようになっていく。そんな住まいの原体験を大切にする、「子どものためのスマートユニバーサルデザイン」を、積水ハウスはさらに追究していきます。



子どものための
スマートユニバーサルデザイン
アイテムブック



おうちのキッズUDチェックカード



展示場キッズUDポップなど



子どものための
スマートユニバーサル
デザイン

= 安全性を確保する

+ 自主性を育む